

横川

七ノ

一九八一年八月二十九日

林道烏川線の第七号橋から沢に入る。この沢は横川とよばれている。尾根一つ隔てただけで、反対方向に流れている小川の支流と同じ名前である。

九時四〇分、わらじをつけて出発する。すぐ左に支流(上文殊沢)を分け、そちらに入る西・阿部パーティを見送る。水量は、右の横川の方が多い。横川側には小さな滝がかかっている、先を期待させたが、すぐ平凡な河原となってしまった。

河原はずっと続く。時々二〜三層の小滝が出てくるだけで、何の変化もない。

一二時二〇分、地形を判断して遊

上文殊沢(仮称)

七ノ

一九八一年八月二十九日

烏川林道ゲートに車を置いて出発。一時間半ほどで横川出合。きれいな水の流れた。一〇分としないうちに

行終了とし、右岸の尾根に向かつて登る。五分程で尾根に出る。尾根には、廃道化した道があった。

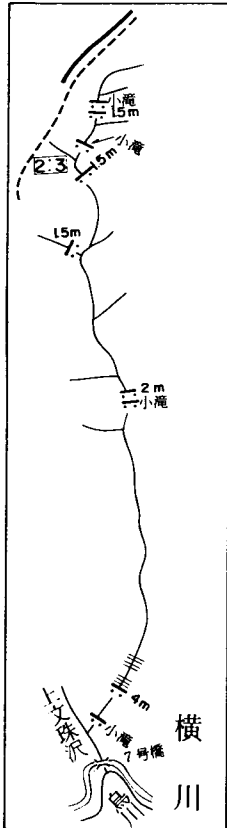
(記)

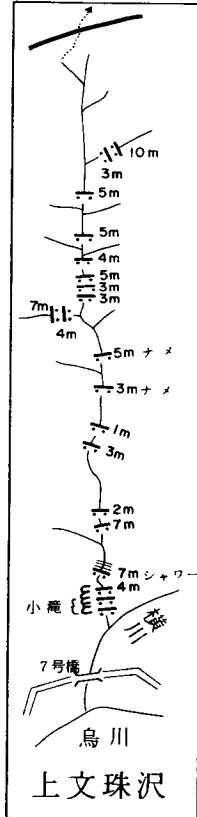
「タイム」 七号橋(九:四〇) ↓ 終了

(一二:二〇) ↓ 尾根(一二:二五)

烏川林道ゲートに車を置いて出発。

右岸から支流が入る。今日の予定はこの支流(上文殊沢と仮称する)の遡行だ。本流の方には、何となく滝が





ありそうな霧囲気が出てきたというのに、小さな支流に入らねばならぬといとは、何となく残念な気がしたが、結果的にはこちらの沢の方が面白かったようだ。

上文殊沢入口は平凡であったが、少し進むとV字に切れ込み、滝のありそうな気配。そして、滝が出てきた。五ヶ程程度のものが三つ。いずれも直登。ホールド豊富で、今日が沢登り二回目の阿部さんにとっても、手頃な滝登りになっただろう。こんな調子ならこの先も期待できそうである。

伐採されて明るくなった部分を過

ぎると、またV字に切れ込んだ沢筋となる。小滝がいくつも出てくるの

下文殊沢(仮称)右俣

上二
一九八五年九月二八日

飯坂温泉からバイクを使って下文殊沢へ。一時間程で烏川林道六号橋へ到着。身仕度を整えて、林道から踏跡にそって下文殊沢出合に降りる。

出合に立つと、連瀑となって滝がかかる。左岸なら濡れないで登れるが、今日はシャワークライミングを楽しむながら直登する。

で、登るにあきない。
稜線直下まで流れが続いて、二時四〇分、尾根上に出る。
(記・P)

「タイム」 出合(九:三〇)↓遡行終了(一一:四〇)

すぐ二俣となる。右俣には二ヶ程の小さな滝がかかっている。水量は、二対三で右俣の方がいくらか多い。右俣に入って遡行を続ける。

右俣は、次から次へと適当に滝が出てきて、あきることはない。簡単に直登でき、沢の入門コースとして最適である。